

East & West Report

中国, アジア, 旧ソ連・東欧のエネルギー, 石油・ガス, 石油精製, 石油化学と関連産業

週2回刊(月・木曜) 祝日休刊
発行所 (株)東西貿易通信社
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-3-4-305
電話 (03)6434-7345
FAX (03)6434-7393
e-mail biz@east-west.co.jp
購読料(前金)半年50,000円 1年98,000円
編集印刷発行人 松嶋一美
©TOZAI BOEKI TSUSHINSHA 禁無断転載

No.11854 2020年10月5日(月)

Report	主要国のLNGプロジェクト(6) ロシア(2)2 2024年までに最大6,500万トン、2035年には1億4,000万トンの生産目指す
Feature	中国の2020年8月の石油製品生産動向 増加率が若干低下
Energy	■ベトナムHaiphong市が2件のLNG発電計画承認、Exxonが参加か ■韓国Kogasと韓国道路公社、水素/LNG複合充填所建設の協力覚書
Refinery	■Sinopec洛陽分公司、減圧残油HTU処理開始 ■中海油寧波大榭海信油品倉儲公司、小田湾油庫二期着工 ■ミャンマー Dawei SEZ開発計画、コロナ禍でも継続 ■インドBPCL、IPOの趣意書提出期限を11月に延長
Chemical	■Sinopec、天津の大型エチレンやLNG第3期などに100億ドル投下 ■山東省の青島海湾化学PVC第2期が竣工、総生産能力80万t/yに ■インドネシアPertamina、TPPIの設備拡張に着手 ■中国の万華化学集団、上海万華科聚化工科技全株式を譲渡
Topics	★台塑石化、雲林県麦寮のNo.3クラッカーを再稼働
Data	データファイル(2020年9月) -1 12 エネルギー・石油・ガス・化学・薬品・環境・プロセス産業分野-1 中国 旧ソ連・東欧

【お知らせ】

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、レポートの配送が1-2日程度、遅延する可能性があります。電子メールによるPDFファイルの配信をご検討ください。詳細は電話(03-6434-7345)かメール(biz@east-west.co.jp)でお問い合わせ下さい。

(株)東西貿易通信社

Report

■主要国のLNGプロジェクト(6) ロシア(2)

2024年までに最大6,500万トン、2035年には1億4,000万トンの生産を目指す

ロシアのLNGプロジェクトは、これまでにGazpromのSakhalin-2に続いて、NavatekのYamal LNGが稼働している。政府は、LNG生産を2024年までに最大6,500万トン、

2035年には同1億4,000万トンとしており、Navatekを中心に大型プロジェクトが計画されている。

(詳細次号)

■ロシアの主要 LNG プラントと計画 (1)

事業名称 トレイン	建設サイト 稼働年 生産能力	オーナー(シェア)	液化技術	基本設計 EPC	ガスソース LNG販売
Yamal LNG T1	Yamal Pen., YNAO 2017年 550万t/y	Novatek (50.1%), Total (20%), CNPC (20%), 絲路基金 (9.9%)	APCI 50% Parallel AP-C3MR	CB&I (McDermott) /千代田化工建設/ Saipem/NIPigaz Technip/日揮	Yuzhno- Tambeyskoe Total, CNPC, Engie, Shell, Gazprom, Gas Natural Fenosa, Novatek
Yamal LNG T2	Yamal Pen., YNAO 2018年 550万t/y	Novatek (50.1%), Total (20%), CNPC (20%), 絲路基金 (9.9%)	APCI 50% Parallel AP-C3MR	CB&I (McDermott) /千代田化工建設/ Saipem/NIPigaz Technip/日揮	Yuzhno- Tambeyskoe
Yamal LNG T3	Yamal Pen., YNAO 2019年 550万t/y	Novatek (50.1%), Total (20%), CNPC (20%), 絲路基金 (9.9%)	APCI 50% Parallel AP-C3MR	CB&I (McDermott) /千代田化工建設/ Saipem/NIPigaz Technip/日揮	Yuzhno- Tambeyskoe
Yamal LNG T4	Yamal Pen., YNAO 2020年 94万t/y	Novatek (50.1%), Total (20%), CNPC (20%), 絲路基金 (9.9%)	Novatek Arctic Cascade		
Arctic LNG 2 T1-3	Gydan Pen., YNAO 2024-25年 1,980万t/y	Novatek (60%), Total (10%), CNOOC (10%), CNPC (10%), Japan Arctic LNG (10%)* *JOGMECが75%と三 井物産が25%	Linde MFC	NovaEngineering (TechnipFMC/ Linde/NIPigaz) Technip/ NIPigaz/Saipem	Utrenneye
Ob LNG (Obsky SPG)	Yamal Pen., YNAO 計画 480万t/y	Novatek	Novatek Arctic Cascade		Verkhnetiuteyskoye, Zapadno- Seyakhinskoye
Arctic LNG 1	Gydan Pen. YNAO 構想 2,000万t/y	Novatek			Geofizicheskiy Trekhuborniy Soletsko- Khanaveyskoye
Arctic LNG 1	構想 5,000万t/y	Novatek			Bukharinskiy
Arctic LNG 3		Novatek			North-Obkskoe

ロシアの主要 LNG プラントと計画 (2)

事業名称 トレイン	建設サイト 稼働年 生産能力	オーナー(シェア)	液化技術	基本設計 EPC	ガスソース LNG販売
Vysotsk LNG (Cryogas-Vysotsk) T1-2	near the Port of Vysotsk, Leningrad 2019年 66万t/y	Novatek (51%), Gazprombank (49%)	Air Liquide Smartfin	OMZ-DAELIM (OMZ/大林産業)	Gazprom pipeline Gasum, Novatek
Vysotsk LNG (Cryogas-Vysotsk) T3-4	near the Port of Vysotsk, Leningrad 計画 110万t/y	Novatek (51%), Gazprombank (49%)	Air Liquide Smartfin		
Baltic LNG T1-2	Ust-Luga, Leningrad 2024年 1,300万t/y	Gazprom RusGazDobycha (RusKhimAlliance) (Shellは撤退)			Achimov, Valanginian
Portovaya LNG	Vyborgsky, Leningrad 2020年 200万t/y	Gazprom	Linde LIMUM	Linde SRDI Oil & Gas Peton	
Pechora LNG	Indiga 計画停止 400万t/y	Alltech CH Gas Rosneft (撤退)			Kumzhinskoye Korovinskoye
Sakhalin-2 T1-2	Prigorodnoye, Sakhalin 2009年 1,080万t/y	Gazprom (50%), Shell (27.5%), 三井物産 (12.5%), 三菱商事 (10%)	Shell DMR	千代田化工建設 /Fluor/Nipigaz 千代田化工建設 /TOYO/Nipigaz KhinEnergO	Sakhalin-2 東京電力, 中部電力, 東北電力, 九州電力, 東京ガス, 大阪ガス, 広島ガス, 東邦ガス, 西部ガス, Kogas, Gazprom, Shell
Sakhalin-2 T3	Prigorodnoye, Sakhalin 計画 540万t/y	Gazprom (50%), Shell (27.5%), 三井物産 (12.5%), 三菱商事 (10%)	Shell DMR		Sakhalin-2
Far East LNG	De-Kastri, Khabarovsk Krai 計画 620万t/y	ExxonMobil (30%), Rosneft (20%), SODECO (30%), ONGC Videsh (20%)			Sakhalin-1
Vladivostok LNG	Perevoznaya, Khasan, Vladivostok 計画変更 150万t/y	Gazprom			Sakhalin, Yakutsk

Feature ■中国の2020年8月の石油製品生産動向 増加率が若干低下

中国製油所の8月の原油精製量は5,947万トン(日量192万トン)で、前年同月比9.2%増という高い水準になった。ただ、新型コロナウイルス感染症制圧の目処がたった4月以降、月を追って拡大していた増加率は、史上最高の精製量を記録した6-7月から若干低下した。

製品別ではかなりの開きがあり、コロナ禍で大幅に需要が落ち込んだガソリンは回復が遅れ、7月になってようやく前年水準を若干上回る程度で推移している。ジェツ

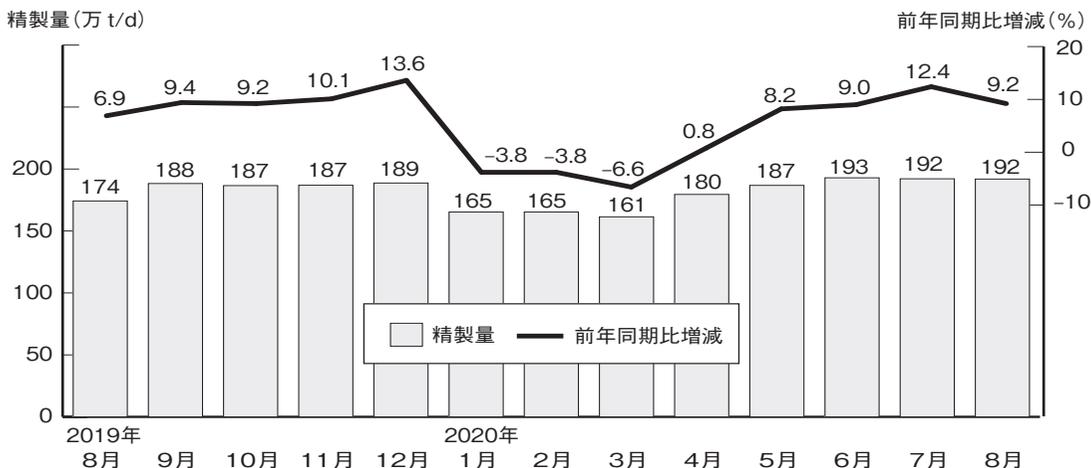
ト燃料にいたっては、4月に前年の半分近くまで減少、7-8月になっても前年水準からは25%以上の減少が続いている。

また、最大の輸出製品である軽油は、1-3月の落ち込みが大きく、6-7月には前年を10%以上上回ったが、海外市場も低迷しているため、輸出が前年から10%以上落ち、8月の生産はほぼ前年並に下がった。

全体的に石油製品の在庫が積み上がっており、今後の精製量は、8月以上に調整的なものになる可能性がある。

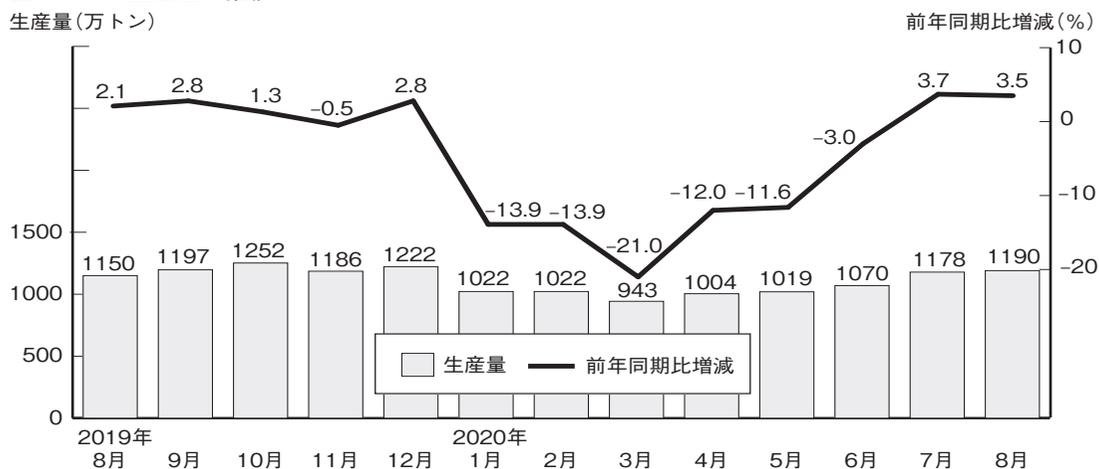
■原油精製量の推移

精製量(万t/d)

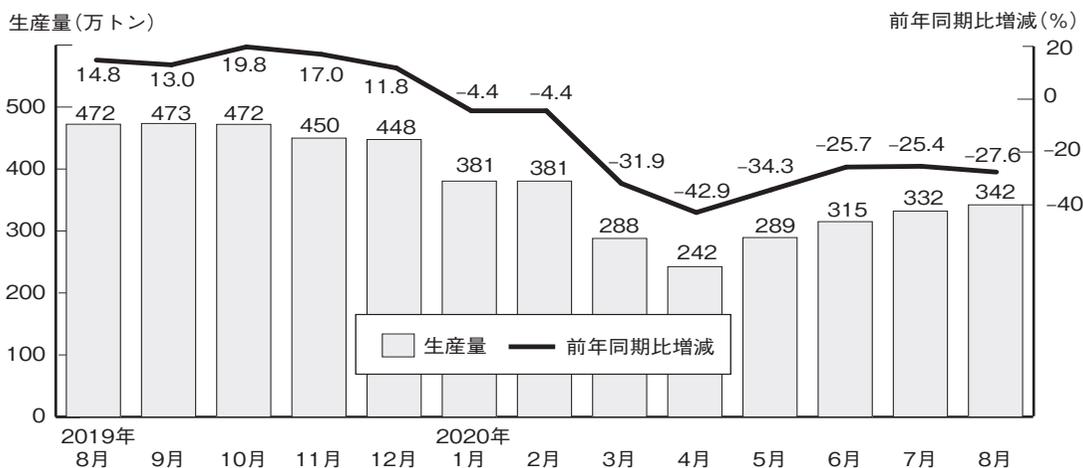


■ガソリン生産量の推移

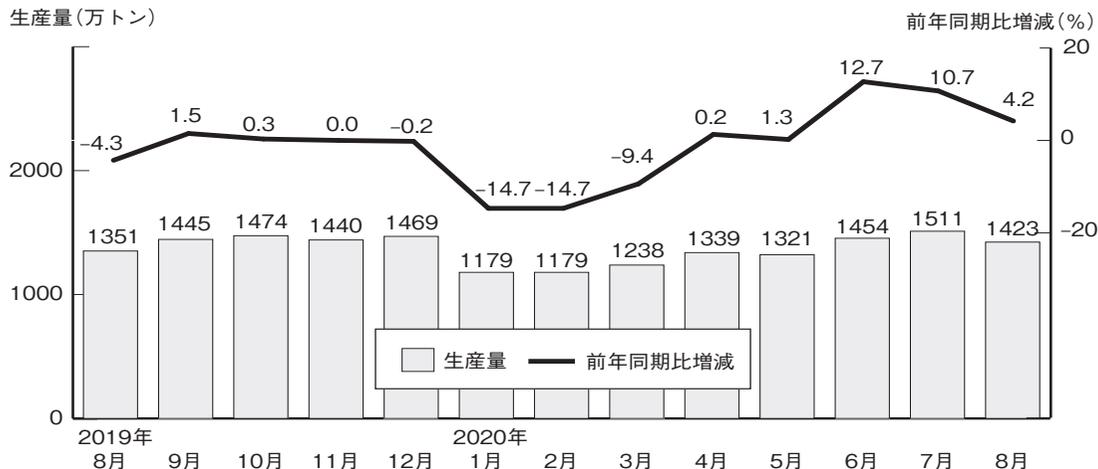
生産量(万トン)



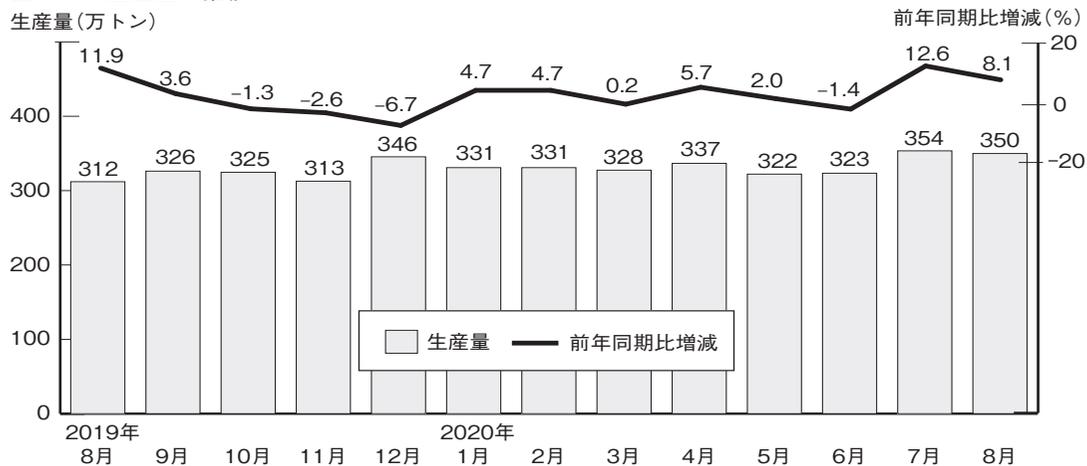
■ジェット燃料生産量の推移



■軽油生産量の推移

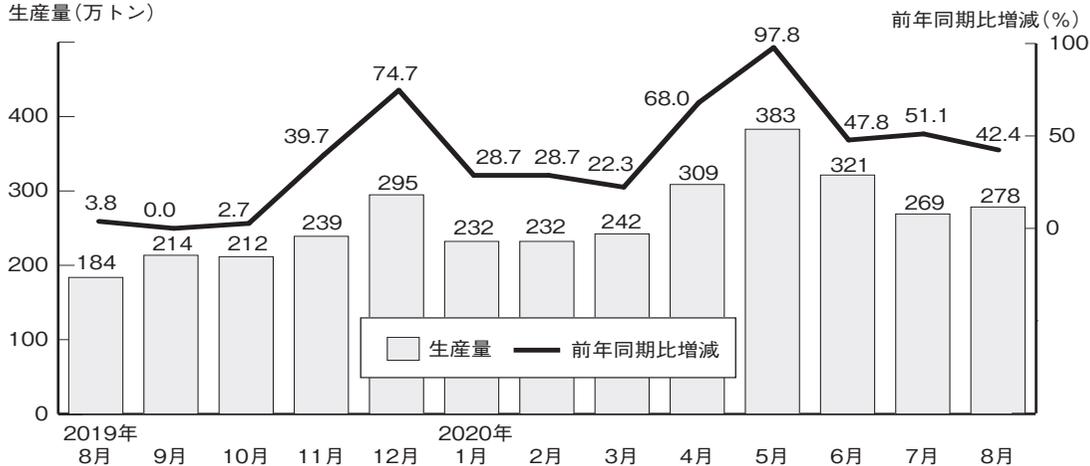


■ナフサ生産量の推移



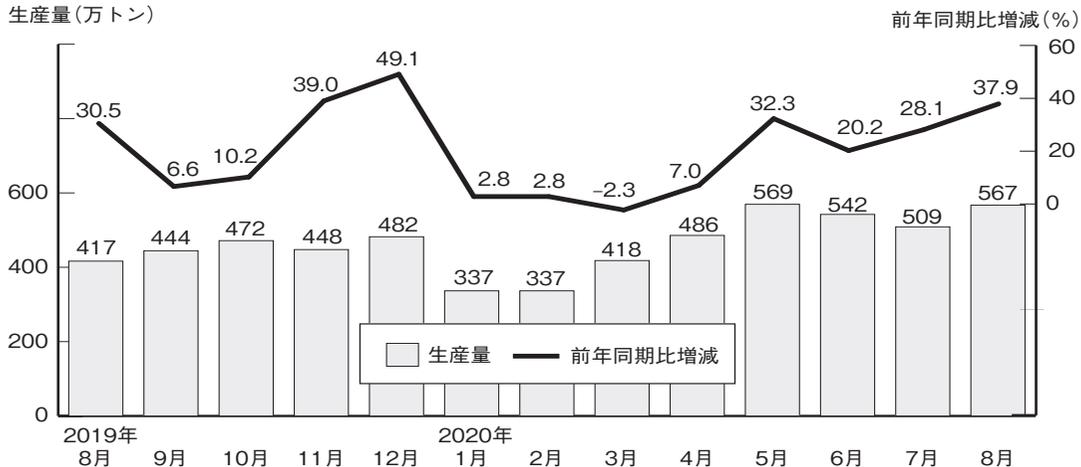
■重油生産量の推移

生産量(万トン)



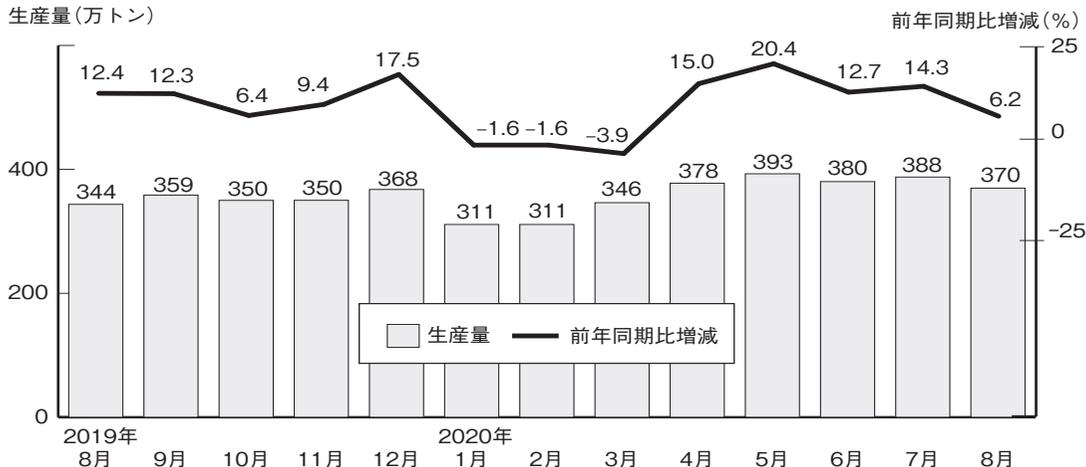
■アスファルト生産量の推移

生産量(万トン)



■LPG生産量の推移

生産量(万トン)



Energy**■ベトナムHaiphong市が2件のLNG発電計画承認、Exxonが参加か**

ベトナム北部のHaiphong市人民委員会は、50.9億ドル規模のLNG輸入/ガス火力発電プロジェクトを承認、2026-27年に発電が開始される見込みとなった。また、これとは別に19億ドル規模のLNG発電プロジェクトも承認したという。

Haiphong市の声明によれば、同LNG火力発電所は、2026-27年に2,25GWの出力で発電を開始し、2029-2030年までに4.5GWに引き上げられる。同プロジェクトには、年間受入量600万トンのLNG輸入ターミナル建設も含まれる。

ベトナム政府は今年6月、グエン・スアン・フック首相とExxonMobil LNG Market DevelopmentのIrtiza Sayyed社長が電話で会談し、同社のベトナムへの投資を歓迎すると発表した。ウェブサイトで明らかにされたところによれば、ExxonMobilが計画しているのは、HaiphongとLong AnのLNG発電計画。LNGは米国を中心に輸入する計画で、両国の貿易リバランスに寄与としている。なお、今回のHaiphong市の声明に関して、ExxonMobilはコメントしていない。

もう一つのプロジェクトは1.6GWのLNG発電計画。2025年に第1期、2028年に全プラントが稼働する予定だが、開発事業者や投資家は確定していないという。

■韓国Kogasと韓国道路公社、水素/LNG複合充填所建設の協力覚書

韓国ガス公社(Kogas)と韓国道路公社は、高速道路の水素/LNG複合充填所設置のための協力覚書を締結、水素/LNG複合充填所を3カ所に設置する。

世界初の充填ステーションモデルで、Kogasは充填所の建設と運営を担当し、道路公社は国土交通省と共同で充填所敷地と建設のコストを支援する。今回の3カ所に続き、政府の水素経済活性化とグリーンモビリティ普及拡大策に合わせて、2025年までに主要物流拠点30カ所に水素/LNG複合充填所を建設する。

Refinery**■Sinopec洛陽分公司、減圧残油HTU処理開始**

中国石油化工股份有限公司(Sinopec Corp)洛陽分公司は、減圧残油水素化精製設備(HTU)で処理を開始した。

減圧残油HTUの処理能力は260万t/y、精製部門構造調整プロジェクトの一環で、12億元の資金を投下した。これまで洛陽分公司は、減圧残油はディレードコーカー(DCU)により石油コークスとしていた。

■ 中海油寧波大榭海信油品倉儲公司、小田湾油庫二期着工

浙江省の中海油寧波大榭海信油品倉儲有限公司は9月24日、小田湾石油製品貯蔵基地建設の2期プロジェクトに着工した。

同プロジェクトは5.7haの用地に、ガソリン、ジェット燃料、軽油、エタノールなどを貯蔵する11万8,500m³の浮き屋根式タンクなどを建設するもの。中石化第四建設会社がタンク建設を担当し、2万5,000m³を2基、2万m³、1万5,000m³、1万m³、8,500m³、5,000m³を各1基建設する。竣工は2022年の予定。

■ ミャンマー Dawei SEZ開発計画、コロナ禍でも継続

ミャンマー Tanintharyi地域のDawei経済特別区(SEZ)管理委員会は、同SEZにおける80億ドル規模のインフラ開発プロジェクトを継続する方針。ミャンマーでも新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、同事業の土地のリースに関する最終契約が延期されるなど、頓挫することも懸念されていた。

同管理委員会によれば、9月下旬に合計10社から開発のオファーを受け、うち8社は中国系企業だという。同SEZでは、これまでタイや日本の企業が中心に支援を続けてきたが、近年は同SEZを中国のインド洋に向かう輸出ハブと位置付け、中国企業が投資を加速している。計画が完了すれば、東南アジア最大のSEZとなり、Thilawa SEZの8倍、Kyauk Phyu SEZの10倍以上の規模となる。

同SEZへの中国企業の投資案件には中国石油天然ガス集団(CNPC)などの製油所計画も含まれており、中国寰球工程公司(HQCEC)と中国石油管道局工程有限公司(CPP)や、中国石油華東設計院(CEI)と雲南印太集団(Yunnan Indo-Pacific Group)および現地Myanmar Chemical and Machinery (MCM)が事業化調査(FS)を実施する。MCMの計画は、今年7月に電力エネルギー省(MOEE)に申請した原油処理能力800万t/yの製油所建設に関する事業化調査案に基づくもので、港湾などサポートインフラの建設も含まれている。製油所が稼働すれば、輸入依存度が高いミャンマーの石油製品国産化と製品価格低減が図られ、エネルギー安全保障に向けた基盤が強化される。

■ インドBPCL、IPOの趣意書提出期限を11月に延長

インド国営石油会社のBharat Petroleum(BPCL)は、同社の新規株式公開

(IPO)に関する趣意書の提出期限を今年11月6日まで延期した。同IPOは、インド国会社の民営化計画に伴うもので、政府保有株の全量となる53.29%の株式を売却する。

BPCLは、Maharashtra州およびKerala州、Madhya Pradesh州で製油所の運営を行っており、原油処理能力は合計で70万2,000bpdに達する。また、同社が資本参加しているアッサム州のNumaligarh Refinery(NRL)は、運営している製油所から隣国のバングラデシュ、ミャンマー、ブータンなどに向けて石油製品を輸出しており、今回のIPOで得た資金の一部は、同製油所の拡張計画などに充てる予定とされている。

Chemical

■ Sinopec、天津の大型エチレンやLNG第3期などに100億ドル投下

中国石油化工集团公司(Sinopec)は9月27日、天津市政府と戦略的枠組み協力協定に調印した。両者は、天津の石油化学産業をさらに強化し最適化するために主要分野での協力を強化し、共同で中国天津南港工業区を世界クラスの新化学材料拠点、Sinopecの中国北部における最も重要な生産拠点および化学製品の化学工業製品物流・販売センターに発展させることに合意した。

Sinopecは天津市に700億元以上の資産を保有しているが、2021年-2025年の「第14次5カ年計画」期間中に、主要プロジェクトに700億元(約100億ドル)の追加投資を行う。天津石油化学南港の120万t/yのエチレンと下流の最先端新材料産業クラスタープロジェクト、Sinopec天津LNGフェーズ3拡張および冷熱エネルギー総合利用プロジェクト、中石化北京化工研究院パイロット試験基地プロジェクトを共同で推進する。また、中石化潤滑油基地プロジェクト、水素エネルギー産業の育成・応用プロジェクトを進め、天津の石油化学産業の変革と近代化をさらに促進し、質の高い開発を実現する。

さらに、天津自由貿易試験区における原油、天然ガス、化学品などのバルク取引を積極的に検討・追求し、Sinopecの天津における天然ガス事業、地熱・廃熱などの新エネルギー開発と活用、石油製品パイプラインや販売網の構築を共同で推進し、Sinopecの天津におけるパイプライン貯蔵・輸送施設の安全かつ円滑な運営を共同で確保するとともに、天津市海河産業基金の設立を共同で推進する。同産業投資基金は、主に新エネルギー、新素材、省エネ・環境保護、インテリジェント製造などの産業を対象に、早期・中期のイノベーション投資を実施し、天津市の科学技術成果に投資して、重点産業開発とプロジェクト建設を支援する。

Sinopecは、天津市との良好な協力関係を長く維持しており、特に石油精製・化学工業の発展と石油製品と天然ガスの市場の構築に力を入れている。

■山東省の青島海湾化学PVC第2期が竣工、総生産能力80万t/yに

山東省の青島海湾化学有限公司は9月28日、ポリ塩化ビニル(PVC) 2期プラントの試運転に成功した。

生産能力は40万t/yで、14億元を投下してIneos技術により2018年12月から建設を進めていた。これにより、同社のPVC生産能力は80万t/yに倍増した。

■インドネシアPertamina、TPPIの設備拡張に着手

インドネシア国営石油会社のPertaminaは、同社が出資している東ジャワ州TubanのPT Trans Pacific Petrochemical Indotama(TPPI)の設備の拡張計画に着手する。同計画では、約1億8,000万ドルを投下して、TPPIの運営する設備の能力を現状から約3割引き上げる計画としている。

TPPIは、かつて現地財閥などがインドネシア2番目のエチレンセンターの運営会社として設立したが、事業の中心であったTirtamasの経営破綻などで計画は頓挫し、完成していた芳香族コンプレックスのみを運営することとなった。同コンプレックスは、処理能力10万bpdのコンデンセートスプリッターを中核としたもので、パラキシレン(PX)年産60万トン、オルソキシレン(OX)同12万トン、トルエン同10万トンの芳香族抽出設備や、同110万トンの灯油設備、同18万9,000トンの軽油設備などからなる。

同国で本格的なPXの生産が可能なのは、TPPIを除けばPertaminaが運営する中部ジャワ州のCilacapのみで、その能力も同20万トンと小規模であり、同国は現在、年間約100万トンのPXを輸入している。一方で、PXは海外に大規模な設備が複数あり、原料調達などのコストを加味すれば採算性が不安定なこと、さらに中国で大増産が計画されているなどから、TPPIも通常はPXの生産を行わず、高品質ガソリンの製造などを行っている。ただ、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うロックダウンの影響によるガソリン価格の暴落などもあって、TPPIは今年9月からPX生産を再開している。

また、Pertaminaは、現在ロシアRosneftとともにTubanで進めている新製油所の建設計画と連動し、同製油所とTPPIのコンプレックスを統合するTuban

石油精製・石油化学コンプレックス(TGRR)構想も持っており、同構想の実現に向けても、今回の設備増強は欠かせないものとなっている。

TGRRでは、原油処理能力30万bpd(約1,500万t/y)の新製油所とTPPIの芳香族コンプレックスと統合、さらにエチレン100万t/y規模のクラッカーや各誘導品設備、30万DWTのVLCCが接岸可能なターミナルなども建設する計画。誘導品は130万トンt/yのポリプロピレン(PP)や65万t/yのポリエチレン(PE)、50万t/yのスチレンなどを計画、2019年にスペインのTecnicas Reunidas(TR)にベーシックエンジニアリング・デザイン(BED)および基本設計(FEED)業務を発注、建設予定地の地権者との交渉も進めており、2025年稼働を目指している。

■中国の万華化学集団、上海万華科聚化工科技全株式を譲渡

中国の万華化学集団股份有限公司は9月28日、同社の全額出資子会社である上海万華科聚化工科技発展有限公司を売却すると発表した。煙台共同財産権取引所を通じて、承認されている鑑定評価結果である7億3,100万元を下回らない価格で売却するとしている。売却により、コロナ禍にあってMDIの価格低迷などに苦慮する同社の財務状況を改善する。

上海万華科聚化工科技は、上海市浦東新区における一大ビジネス・研究開発センターである上海統合センター建設を目的にプロジェクト実施会社として、2012年10月25日に資本金4億9,999万9,995円で設立された。同事業は2014年2月に上海浦東新区発展改革委員会の承認を受けた。しかし、万華化学が想定していなかったのは、上海の立地優位性という理想に頼って大きなインパクトを与えようとした当初の計画が、地元住民の環境問題への敏感さに阻まれたことである。急成長を遂げた万華にとって、グローバル市場を見据えて上海という一等地に巨大センターを建設しようという野心的な計画は、当初の完成予定である2018年から2019年に、さらに2020年と大幅な遅延を余儀なくされた。

また、今回の売却案の背景として、煙台磁山にあるグローバル研究開発センターが完成したことと、寧波高機能材料研究所の建設が進んでいることがあげられる。上海統合センターの研究開発機能は主にこの2カ所が担うことになる。

Topics

★台湾塑膠工業集団(FPG)グループの台塑石化(FPCC)は、雲林県麦寮で運営するエチレンコンプレックスのNo.3クラッカーを再稼働した。同設備は、今年8月のメンテナンスに伴い停止していたが、今後10月、11月にかけてオレフィン市場は好調に推移する見通しであるとして、設備のフル稼働に着手した。

Data ■データファイル(2020年9月) -1

●エネルギー・石油・ガス・化学・薬品・環境・プロセス産業分野-1

[中国]

- ◆中国中化集団(シノケム)と中国化工集団(ケムチャイナ)が経営統合に向けた協議に入った。国有企業である両社の董事長を務める寧高寧氏が2日表明した。 09-02

- ◆2020年上期(1-6月)の中国の石油製品輸入量は、前年同期比1.5%増の1,704万トン、輸出量は、同3.9%増の3,379万トンとなり、上期の純輸出は1,675万トンに拡大した。 09-03

- ◆中国Sinopec Corpの2020年上期売上は前年同期比15.3%減の1兆342億4,600万元、利益は228億8,200万元の損失。国際会計ベースでは営業利益は215億100万元、利益は217億2,600万元の損失となった。 09-03

- ◆中国Sinopec中科(広東)煉化有限公司で8月29日、30万t/yのアルキレート設備が合格製品の生産を開始した。中石化第4工程会社が建設した。 09-03

- ◆中国の遼寧宝来企業集団とLyondellBasellは1日、遼寧省盤錦市で合弁企業の宝来利安徳巴賽爾石油化工公司設立とエチレンコンプレックスの操業開始式典を行った。 09-03

- ◆中国化学華陸工程科技(CCHEC)は8月24日、オマーンのSohar Asphaltとオマーン初のビチューメン製油所のEPC役務を受注した。150万t/yの製油所を建設し、アスファルトや石油製品を生産する。 09-03

- ◆中国商務部は8月31日、米国から輸入したエチレングリコール(EG)およびプロピレングリコール(PG)の特定モノアルキルエーテルについてダンピング調査を同日から行うと発表した。 09-03

- ◆中国民営自動車最大手の浙江吉利控股集团が原子力発電所の運営会社に出資する。中国の原発運営に民営企業が参画するのは初めて。吉利は人工衛星分野にも参入するなど多角化を進めている。 09-03

- ◆米国で、イラン産石油を中国の製油所に販売しようとしたとして、共謀罪、国際緊急経済権限法(IEEPA)違反、でテキサス州在住の3名とニューヨーク在住1名の計4名の被告が起訴された。 09-03

- ◆中国が輸入に依存する戦略物資の備蓄を急いでいる。車載電池に使うコバルトや肥料原料のカリウムを積み増すほか、原油輸入量は前年比1割以上も増えた。穀物在庫も高水準で推移する。 09-06

- ◆中国の深圳市沃特新材料は6日、江蘇省子会社の江蘇沃特特殊材料製造が進めていた年産能力5,000トンの液晶ポリマー(LCP)製造プロジェクトが完成したと発表した。 09-06

- ◆2020年6月の中国のLPG(プロパン/混合LPG/ブタン)輸入は167万トンで前年同月比8.8%減、上期(1-6月)は920万トンで前年同期比6.9%減となった。 09-07

- ◆Honeywell UOPは3日、上海華誼集団広西華誼新材料が欽州港経済技術開発区石化産業園区で計画している75万t/yのプロパン脱水素(PDH)プラントにOleflexプロセスを採用されたと発表した。 09-07
- ◆香港の証券先物委員会(SFC)は7日、潤滑油添加剤の生産を主力とする本土の特殊化学品メーカー、天合化工集団などを相手取り、市場失当行為審裁処における手続きを開始したと発表。 09-07
- ◆中国Sinopec傘下の長嶺分公司など5企業が共同で開発した30万t/yの過酸化水素(H₂O₂)法プロピレンオキシサイド(PO)プラントのプロセス技術がSinopecの審査を通過した。 09-07
- ◆中国の2020年7月のLNG輸入量は503万トンで前年同月比3.1%増、1-7月累計輸入量は3,648万トンで前年同期比9.3%の大幅増となった。ただ、前月比としては13.1%減となった。 09-07
- ◆中国の2020年7月の原油輸入は、5,129万トンで前年同月比25.0%の大幅増を記録した。国別ではロシアが同30.1%増の738万トンでトップ。1-7月累計は3億2,006万トンで前年同期比12.0%増。 09-07
- ◆中国商務部は2日、2020年燃料油非国営貿易輸入申請企業の審査状況に関する公示を行った。申請したのは、青島新潤豊石油貿易有限公司、中石化燃料油山東有限公司など13社。 09-07
- ◆米国財務省と国務省は3日、対イラン制裁違反で中国、香港、イラン、アラブ首長国連邦(UAE)に拠点を置く企業11社に対して制裁を課すと発表した。 09-07
- ◆北京宇極科技発展公司与広東省化学・精細化工実験室は共同で広東省汕頭市に六フッ化硫黄(SF₆)の代替フッ素製品のペルフルオロイソブチロニトリル(EINEC)実証プラントを建設する。 09-07
- ◆日本精化は、ドライヤー熱で機能発揮する毛髪補修素材「RepairLipid-DSL」を開発した。植物原料由来のヘアダメージケア素材で、中国の法規制にも対応、6月から中国向けにサンプル出荷を開始した。 09-08
- ◆2020年1-7月の中国の石油製品輸入量は、前年同期比3.0%増の1,895万トン、輸出量は、同2.7%減の3,700万トンとなり、純輸出は1,804万トンとなった。5月以降、純輸出が減少傾向にある。 09-10
- ◆韓国のLG化学と中国のコバルト製品メーカー浙江華友鋳業の合併会社、衆友新能源材料は10日、江蘇省無錫市で新エネルギー車(NEV)向けバッテリーの正極材工場の竣工式典を行った。 09-10
- ◆山西美錦能源と中国化学工程集団傘下の中国化学賽鼎工程(EDIN)は4日、内蒙古美錦新能源のコークス炉、コークス炉ガス総合利用および水素プロジェクトに関する契約に調印した。 09-10
- ◆中国江蘇省の紅宝麗集団泰興化学は、12万t/yのポリプロピレングリコール(PPG)プラントを計画している。近く、12万t/yのプロピレンオキシサイド(PO)プラントが完成する。 09-10
- ◆中国商務部は4日、2020年第33号公告を公布し米国原産の1-プロパノール(NPA)に対しダンピングがあったとの仮決定を行い、9日から保障金方式によるダンピング防止税を徴収すると発表した。 09-10

- ◆三菱ケミカルは、中国で新規事業開拓を進める。市場開発室を軸に、自動車、電子・半導体関連、ヘルスケアなど、幅広いビジネススキームの構築を目指す。 09-11
- ◆中国の中国巨石は、引っ張り弾性率が100ギガパスカル超の新型ガラス繊維「E9」を開発した。一般的なEガラス繊維より36%高く、引っ張り強度は3,100-3,500メガパスカルで6割も高い。 09-16
- ◆2020年7月の中国のLPG(プロパン/混合LPG/ブタン)輸入は154万トンで前年同月比23.0%減、1-7月累計は1,074万トンで前年同期比9.6%減となった。 09-14
- ◆ Honeywell UOPは、中国山東省東營市の振華石油化工との間で、プロパン脱水素(PDH)技術であるUOP C3 Oleflexプロセスのライセンス供与や触媒を提供する契約に調印した。 09-14
- ◆山東省の淄博齊翔騰達化工は、広西壮族自治区欽州市とプロパン脱水素(PDH)や過酸化水素法プロピレンオキシド(HPPPO)など軽質炭化水素総合利用新素材協力協定を結んだ。 09-14
- ◆中国の福建富宝騰達化工は、福建省南平市で電子グレードの超高純度フッ化水素、UPSグレードフッ化水素酸、ジフルオロクロロメタン(F-22)などのプラントの建設を計画している。 09-14
- ◆中国山東省の済済市巨豊新能源は、湖南化工設計院と過酸化水素水プラントの生産技術供与およびEPC契約を結んだ。22万5,000t/yのプラントを建設する。 09-14
- ◆中国山東省の淄博齊翔騰達化工が魯化工園区金山片区に建設していた10万t/yのメチルメタクリレート(MMA)プラントが完成し、生産を開始した。 09-14
- ◆中国寧夏回族自治区の寧夏宝豊能源集団は、中国交通銀行との間で信用供与の戦略的協力協定に調印した。銀川とオールドス市のメタノールからのオレフィン(MTO)設備建設に充当する。 09-14
- ◆住友化学は15日、江蘇省無錫市にポリプロピレン(PP)コンパウンドの生産拠点を新設すると発表した。2021年初めに無錫の新工場と四川省成都市にある工場それぞれ生産を開始する。 09-15
- ◆広東省惠州市で新材料産業の集積地を目指す産業団地「惠州新素材産業園」の建設が始まった。建設地の同市惠東県白花鎮で15日、インフラ施設の起工式が行われた。 09-17
- ◆山東省の淄博齊翔騰達化工は、子会社の齊魯科力化工研究院を深圳証券取引所に上場すると発表した。主要事業は石油精製、石油化学、石炭化学業界向けの触媒の開発・製造・販売。 09-17
- ◆中国PetroChina大慶石化分公司が進めていた原油処理能力の650万t/yから1,000万t/yへの拡張および残油流動接触分解、水素化分解、水素化精製、ガス分離設備、硫黄回収設備の建設が完了した。 09-17
- ◆中国Sinopecの孫会社である中石化易捷銷售公司是、中国の大手自動車メーカーである重慶長安汽車、長城汽車、奇瑞汽車との間で戦略協力協定に調印した。自動車関連事業を展開する。 09-17

- ◆中国Sinopec北京石油分公司と北汽福田汽車および輕程(上海)物聯網科技は、水素エネルギー応用に関する戦略協力協定に調印した。 09-17
- ◆中国の2020年8月の原油生産量は1,665万トンで前年同月比23%増、増加率は前月より1.7ポイント上昇した。1-8月の原油生産量累計は1億3,015万トンで前年同期比1.5%増を記録した。 09-17
- ◆中国の中国石油華東設計院と雲南印太集団が、ミャンマーのTanintharyi地域Dawei経済特別区(SEZ)での製油所建設に関する事業化調査(FS)を近く開始する見通しだという。 09-17
- ◆中国の浙江恒逸石化は16日の公告で、ブルネイで計画している恒逸実業(文萊)有限公司(Hengyi Industries)の精製・石化第2期事業に136億5,000万ドルを投下すると発表した。 09-17
- ◆中国浙江省の寧波巨化新材料で中国新開発のエチレン不均一ヒドロホルミル化とその水素化技術による5万t/yの1-プロパノール設備が稼働しプロピオンアルデヒドと1-プロパノールの生産を開始。 09-17
- ◆帝人は、ポリカーボネート(PC)事業で中国市場に攻勢。2020年度から営業部門の組織に地域統括制を導入、意思決定を迅速化した。次世代自動車・通信端末分野を中心に、高機能品の提案に力を注ぐ。 09-17
- ◆日産化学は、中国での農業化学品事業の基盤を強化。中国での農業営業許可証を取得した上海法人の日産化学製品(上海)有限公司が輸出入業務開始、今年度から新たに農薬・中間体の販売を手がける。 09-18
- ◆中国の石油や石油化学関連企業で構成する中国石油化学工業聯合会は22日、下半期(7-12月)の国内の石油化学製品需要は上半期(1-6月)に比べ拡大するとの見通しを明らかにした。 09-22
- ◆中国内陸部の重慶市政府は22日、中国政府が募集を始めた燃料電池車(FCV)のモデル都市に四川省成都市と共同で申請すると発表した。 09-22
- ◆中国の習近平国家主席は22日、2060年までに二酸化炭素(CO₂)の排出量を実質ゼロにする目標を表明した。「世界経済の『緑の復興』を後押しする」と述べた。 09-23
- ◆紡績糸メーカーの北日本紡績は23日、中国浙江省の化学繊維製造、寧波大発化学繊維と業務提携すると発表した。使用済みペットボトルのリサイクルで提携する。 09-23
- ◆Fluorは15日、同社がエンジニアリング、機器調達、施工管理を担当した米国Valvolineの中国江蘇省張家港市の潤滑油と不凍液プラントが予定より早く完成したと発表した。 09-24
- ◆中国CNOOCは、最初の洋上風力発電プロジェクトが送電グリッドに接続し、発電を開始した。江蘇省近海に位置しており、総設備容量は300MW。 09-24
- ◆中国CNOOCは、南シナ海珠江口盆地の流花(Liuhua)油田群の生産を開始した。2022年には7万2,800bpdの原油ピーク生産に到達する見込み。 09-24

- ◆中国CNOOCは、渤海湾の南堡(Nanbao) 35-2油田S1エリアの操業を開始した。2021年に1,800bpdの原油のピーク生産に到達する見込み。 09-24
- ◆中国Sinopecは11日、サウジアラビアでSinopec Open Dayを開催した。持続可能な発展に向けたSinopecの包括的かつ多面的なアプローチを模索する「Better Energy, Better Life」がテーマ。 09-24
- ◆中国Sinopec高橋分公司で中国国産技術による自動車燃料電池用高純度水素試験プラントが操業を開始した。大連石油化工研究院が開発した技術を採用、純度99.999%の高純度水素を製造できる。 09-24
- ◆中国の華峰集団は、浙江省温州華港LNG貯蔵/ピークシェービングセンターの第1期プロジェクトとして、洞頭区状元巖港区で年間300万トンのLNGプロジェクトに着工した。 09-24
- ◆中国の江蘇延長中燃化学は16日、江蘇省泰興市の経済開発区でプロパン脱水素(PDH)プラントを中核とする延長中燃泰興軽質炭化水素深度加工プロジェクトの1期工事に着手した。 09-24
- ◆中国の晶科能源(Jinko Solar)は、ENEOSとの間で、サービスステーション(SS)を活用したバーチャル発電所(VPP)プロジェクトのコンポーネントの提供について協力協定を締結した。 09-24
- ◆中国の滬東中華造船は、Golar LNGのクロアチアKrk LNGターミナル向けに、中国初のLNG-FSRUを出荷した。14万m³のLNG貯蔵容量と30万m³/hの気化能力をもつ。 09-24
- ◆中国化学工程(CNCEC)傘下の中国五環工程は、広東省広州市に広州支社を開設した。中国五環工程の第2センターとして、地域の石油化学、有機化学工業、新エネなどの分野を担当する。 09-24
- ◆中国国家発展・改革委員会は19日、今年4回目の石油製品の値下げを実施し、ガソリン、軽油をそれぞれトン当たり315元、300元引き下げた。 09-24
- ◆中国国務院の関税税則委員会は15日、報復追加関税の対象となっている米国からの輸入品について、潤滑油など16品目の追加関税適用の除外措置を1年間延長すると発表した。 09-24
- ◆中国製薬会社、科興控股生物技術(シノバック・バイオテック)の尹衛東・最高経営責任者(CEO)は24日、新型コロナウイルス用ワクチンについて、海外から要望があれば増産すると述べた。 09-24
- ◆中国遼寧省の検収チームは17日、大連保税区能源(エネルギー)港-大連LNGターミナルの対外開放を視察、同ターミナルは中国東北部で唯一のLNG受入ターミナルとして正式に対外開放された。 09-24
- ◆三井物産は中国で製鉄所の排ガスからエタノールをつくる事業に乗り出す。現地企業などと800億円近くを投じ、数年内に10工場を整備。まず自動車燃料向けに販売する。 09-25
- ◆中国石油大手の中国石油化工集団(シノペック)は27日、天津市政府と同市に700億元を追加投資し、重点プロジェクトを推進する内容の戦略提携枠組み協定を結んだ。 09-27

- ◆日本化薬は、中国で高機能化学品を拡充し、液晶ディスプレイや第5世代通信、半導体などのニーズを取り込む。ヘンケルから買収したクリーナーや日用品の販売に加え、中国発の新製品も順次投入。 09-27
- ◆Air Liquideは、中国天津市に天津港保税区臨港経済区で空気分離プラントの増強を計画している。6,000万ユーロを投下して2,000t/dの空気分離プラントを建設し、2022年から操業を開始。 09-28
- ◆Honeywellは、中国遼寧省大連市の恒力石化でUOP Polybedプロセスのスイング吸着法(PSA)水素製造設備7基(計140万m³/h)が生産を開始したと発表した。 09-28
- ◆中国PetroChina大慶石化分公司は、東シベリア-太平洋原油パイプライン(ESPO)で輸送されたロシア原油の処理を開始した。同社は、8月末に原油処理能力1,000万t/yへの増強を完了している。 09-28
- ◆中国SinopecとBASFの折半出資会社である揚子石化・巴斯夫有限公司は22日、ネオペンチルグリコール(NPG)の生産能力を8万t/yに拡大したと発表した。 09-28
- ◆中国の煙台経済技術開発区管理委員会と煙台港西港区LNG受入ターミナルの戦略的協力に関する調印式が19日に行われた。煙台港西港区では年間最大500万トンのLNG受入能力が2023年に完成する。09-28
- ◆中国安徽省阜陽市の安徽晋煤中能化工は24日、定遠県と20万t/yのカプロラクタム(CPL)、18万t/yのジメチルフォルムアミド(DMF)、40万t/yの過酸化水素水プラントの立地協定に調印した。 09-28
- ◆中国化学工程第三建設会社が手掛けていた山西沃能化工科技の15万t/yのLNGと30万t/rのエチレングリコール(EG)の電気設備が竣工し、引き渡しを完了した。 09-28
- ◆中国商務部は25日、米国から輸入したポリ塩化ビニル(PVC)の反ダンピング調査を行うと発表した。調査期間は2020年9月25日から2021年9月25日まで。 09-28
- ◆中国石油国際事業(PetroChina International)が、タンカー CORDULA JACOBで初めてパキスタンに供給したEuro I V規格のガソリンが18日、パキスタンのカラチ港で荷揚げされた。 09-28
- ◆中国平煤神馬集団は、河南省信陽市の官渡河工業集積区で光山新材料工業団地プロジェクトの着工式を行った。 09-28
- [旧ソ連・東欧] ◆ロシアの新パイプライン「ノルドストリーム2」計画を巡り、ポーランドの競争・消費者保護局(UOKiK)が、露ガスプロムに罰金を命じたことを受け、同社は異議を申し立てたもようだ。 09-01
- ◆エジプト政府系機関のアラブ工業化機構(AOI)は、ロシアが開発した新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」の国内生産に意欲を示しているようだ。 09-03
- ◆トルクメニスタンTurkmenGazがTurkmenbashi地区のBalkan州Kiyarlyで運営しているガス化学コンプレックスが、フル稼働を達成した。2018年10月に商業生産を開始していた。 09-03

- ◆ロシアGazpromは、バルト海のUst-Luga港近くで計画している大規模なガス処理/LNGプロジェクト実施に向けてロシア開発対外経済銀行(VEB)から資金を確保した。 09-03
- ◆ロシアのミシュスチン首相は3日、ベラルーシでルカシェンコ大統領と会談し、ロシアが開発した新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」をベラルーシに早期に供給することを約束した。 09-03
- ◆川崎重工は、トルクメニスタンTurkmenGazとの間で、Akhal地区における天然ガスからのガソリン製造(GTG)コンプレックスの建設などについて協議を進めているという。 09-03
- ◆農業化学を手掛ける米Corteva Agriscienceは3日、ハンガリー南部Szegedに研究センターを開設すると発表した。投資額は190万ドル。新施設では、種子や作物の保護作業を進める 09-03
- ◆英国の医学誌ランセットの電子版に4日、ロシアで開発された新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」の初期の臨床試験で、参加者全員に抗体反応が確認されたとする論文が掲載された。 09-04
- ◆マース独外相は、ロシア反政府指導者アレクセイ・ナワリヌイ氏に対する毒殺未遂疑惑を巡り、ロシア政府が捜査に協力しなければパイプライン「ノルドストリーム2」計画を見直す可能性を示した。 09-06
- ◆電解液の製造を手掛ける韓国のドンファ・エレクトロライトは、ブダペスト近郊のSoskutに工場を建設する。同社にとって欧州初の拠点となる。 09-06
- ◆チェコ政府は2021年までに、ストローなどのプラスチック製品を禁止する方針。EUで昨年6月に発効した指令を国内法化する形。来年7月までに全面禁止する考え 09-07
- ◆ロシアNovatekは、Novatek Gas&Power Asiaを通じてYamal LNGから最初のLNGカーゴをUAEに輸送した。「Yamal Spirit」に積載され、Jebel Ali LNGターミナルで納入された。 09-07
- ◆ポーランドのエネルギー省が、2040年までの環境政策の改定案を発表した。昨年発表した政策案から脱石炭化をさらに加速させている。 09-09
- ◆Honeywell UOPは、ウズベキスタンUzbekneftegaz傘下のBukhara Oil Refineryが運営するBukhara製油所の2次処理設備向けプロセスライセンスおよびベーシックエンジニアリング業務を受注した。 09-10
- ◆Lummusは、ロシアLUKoilがKstovo製油所に新設するポリプロピレン(PP)プラント向けに、プロセスライセンスおよびベーシックエンジニアリング、触媒供給業務などを受注した。 09-10
- ◆サウジアラビアの電力会社ACWAパワーは10日、ブルガリア南部Plovdiv近郊にあるKaradzhhalovo太陽光発電所の全権益を、オーストリアのEnergyデベロップメントに売却したと発表。 09-10
- ◆ロシアのSiburは、バシコルトスタン共和国Blagoveshchenskのプラスチック生産子会社であるPoliefにおいて、リサイクルPETの生産に着手した。年間3万4,000トンのPETフレークの生産が可能。 09-10

- ◆ロシア連邦天然資源監督局(Rosprirodnadzor)は10日、シベリア北西部ノリリスク市の火力発電所から大量の軽油が流出した事故で、発電所を保有するノリリスク・ニッケルを提訴したと発表。 09-10
- ◆ドイツBASFは、廃タイヤの熱分解技術を擁するハンガリーのニューエナジーと、廃タイヤ由来の熱分解油の購入契約を結んだと発表。ニューエナジーは年間最大4,000トン进行供給する予定。 09-13
- ◆ロシア直接投資基金(RDIF)は、同国で開発された新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」最大5,000万回分をブラジル北東部バイア州に供給することで合意したと発表した。 09-13
- ◆韓国の石油・化学大手SKイノベーションは、ハンガリーに3カ所目の電気自動車(EV)用バッテリー工場を建設する。世界的に高まるゼロエミッション車(ZEV)の需要に対応する。 09-14
- ◆ロシアのムラシコ保健相は15日、ロシアで開発された新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」の治験者の14%に、副作用が見られたと明らかにした。 09-15
- ◆フランスの製薬大手サノフィは、ハンガリー北東部Miskolc工場の生産能力を約50%拡大する。投資額は70億フォリント(2,300万ドル)超で、ハンガリー政府が12億フォリントを助成する。 09-17
- ◆ロシアの製薬大手R-Pharmは17日、新型コロナウイルス感染症の治療薬「Coronavir」が外来患者向け処方薬として承認されたと発表した。近日中にも薬局への供給が開始される見通し。 09-17
- ◆ロシア新パイプライン「ノルドストリーム2」計画を巡り、ドイツ政府は米国が同計画への制裁解除を条件に、10億ユーロを投じて米国産LNGの輸入受け入れ施設を整備する方針のようだ。 09-17
- ◆セルビアとコソボの商工会議所は22日、リチウムイオン電池(LIB)を用いた蓄電施設に関する共同事業を開始すると発表。両国は先に経済関係の正常化に向けた合意を交わしたばかり。 09-22
- ◆Axensは、ロシアRusGazDobychaがバルト海Ust-Luga港近郊で計画しているLNG/エタンクラッカープロジェクトのポリマーコンプレックス向けに、 α -オレフィンの生産技術供与に合意した。 09-24
- ◆ポーランド政府と炭鉱労組は25日、2049年までに国内の全炭鉱を閉鎖する計画で合意した。これを受け、炭鉱労働者による抗議活動は終息する見通し。 09-25
- ◆ポーランドの石油大手PKNオーレンは、年内にチェコのガソリンスタンド2カ所で水素充填ステーションの建設を開始すると発表。来年にサービスを開始する見通し。 09-27
- ◆トルコSTAR Refineriは、石油精製マージン改善に向けて、高騰したロシアUrals原油に代わる原油の調達に乗り出している。ノルウェー Johan SverdrupやイラクBasraを輸入した。 09-28
- ◆ロシア直接投資基金(RDIF)は9月30日、ロシアが開発した新型コロナウイルスワクチン「スプートニクV」2,500万回分をエジプトに供給すると発表した。 09-30

新刊
案内

2019年最新版 好評発売中!!

好評
発売中

東アジアの石油ガス、精製、化学産業を網羅

東アジアの石油産業と石油化学工業

韓国、台湾、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ブルネイ、タイ、ベトナムの最新データ

- 東アジアの石油・ガス、石油精製、石油化学を網羅
韓国、台湾、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インドネシア、ブルネイ、タイ、ベトナムの石油・ガス産業、石油精製、石油化学工業を網羅
- 各国のエネルギー政策と石油・天然ガス産業を整理
各国のエネルギー政策と管理体制、石油・天然ガスの開発・生産状況と展望、需給動向、輸出入、大型開発プロジェクト、LNG、パイプライン計画も整理
- コンプレックスごとの詳細データと新規計画を掲載
石油精製・石油化学コンプレックスごとに各プラントの現有能力、新增設計画、完成年、プロセス・ライセンス、担当エンジニアリング企業を整理
- 全コンプレックスを詳細プラント・フロー図で解説
石油精製、石油化学の全コンプレックスについて、マテリアルバランスに基づいた詳細フロー図を作成。設備構成が一目でわかる
- 精製、センター各社とともに下流各社の概要も整理
石油精製企業、センター幹事企業および下流製品担当企業等の会社概要、現況と新規計画を掲載
- 製品別に生産、需要、輸出入実績と需給予測を掲載
石油製品、基礎化学原料、中間原料、合成樹脂、合成ゴム、合成繊維の主要製品について、生産各社の能力、新增設計画、国別需給推移と需給予測を整理

チャンドラ・アスリ (PT Chandra Asri Petrochemical Center)

インドネシアの合成ゴム生産能力と新增設計画

プラント	担当企業	地名	現有	新增設	ライセンス	エンジニアリング	完成
SBR	Indofirst Nusantara	Sarang	25000		錦湖石油化学	大宇Engg	1999
SBR	Indofirst Nusantara	Sarang	8000		錦湖石油化学	新濟鐵工所	1998
SBR	Sentra Synthetika Jaya	Merak	60000		日本ゼオン		未定
SBR	Chandra Asri	Anyer		45000			未定
SBR	台湾合成ゴム (TSRC)	Gresik					未定

韓国のイソシアネート生産能力と新增設計画

プラント	担当企業	地名	現有	新增設	ライセンス	エンジニアリング	完成
TDI	DC Chemical	群山	45,00t		Allied Chemical	大江工業	1981
TDI	韓国ファインケミカル	麗川	33,00t		R-P		1989
TDI	韓国ファインケミカル	麗川	33,00t				2004
TDI	BASF Company	麗川	140,00t		BASF		1988
TDI	Dow Chemical Korea	麗川	25,00t		Dow Chemical		未定

マレーシアのガスパイプライン(WEST)

延長距離(km)	延長距離(km)		口径(インチ)	完成
	海洋	陸上		
220		32	30	1981
		36	36	1981
230		28	28	1991
		730	36	1991
		350	36	1994
		528	18-36	1997
230		30	30	1997
		275		2001

下記申込欄に必要事項を記入のうえ、FAX (03-6434-7393) までお送り下さい

- 体裁：B5判 752頁
- 発行：2020年1月
- 定価：50,000円（税別、海外のみ送料実費）
- 編集：(株)東西貿易通信社 編集部

申し込みは下記まで
(株) 東西貿易通信社 出版事業部
TEL：03-6434-7345
FAX：03-6434-7393

会社名				部署	
所在地	〒				
電話		代表		部数	
FAX					冊